英検 公益財団法人 日本英語検定協会 ［グローバルキャリアのための留学情報紙］ IELTS

The University Times

July 2013 Vol. 28

http://jtimes.jp/utimes

produced by IELTS by Eiken × The Japan Times ©THE JAPAN TIMES, LTD. 2013

CONTENTS

■ Visit a Global Company：グローバル企業訪問
JICA（独立行政法人 国際協力機構） 1 2

■ Journalist's Eye：英字新聞記者の視点
「ソニーのラボの新発明」「MIXXO到来!」 3

■ Special Feature: 特別読み物
東京大学 4

■ Learn About Industries: この業界を知りたい！
電子情報産業業界 5

■ Colums: IELTS Hot News ／アゴス・ジャパンに聞く
IELTS Hot News／海外の学部 6

■ News in English
英文記事を読んでみよう 7

■ Studying Abroad in the U.S.A.:私の米国留学／読んでほしいこの3冊
米国留学記／書籍紹介 8

■ Study Abroad Benefits: 留学で培う 3 つの力
仮説思考力・単身生活力・発言力 9

■ University's Challenge：国際交流に取り組む大学
武蔵大学 10

■ IELTS
リーディングテストのコツ 11

■ Crossword and Trivia
読み物 12

Visit a Global Company：グローバル企業訪問

日本と途上国をつなぐ援助機関

Vol.18 JICA（独立行政法人 国際協力機構）

開発途上国・地域が抱える課題に対応すべく、多種多様なアプローチの国際協力を実施しているJICA（独立行政法人 国際協力機構）。そのダイナミックな活動は支援対象国への貢献のみならず、ひいては日本の経済の発展にも恩恵をもたらしている。

JICA の正式名称は「独立行政法人 国際協力機構／ Japan International Cooperation Agency」だ。日本政府による政府開発援助（ODA）をオールラウンドに実施する機関として、世界 150 余りの開発途上国・地域の発展に貢献している。

日本の国際協力の歴史は、戦後間もなくの 1954 年、アジア大洋州地域に暮らす人々の生活改善を目的とした国際機関「コロンボ・プラン」への加盟に始まる。加盟日である 10 月6日は「国際協力の日」とされ、毎年 10 月には国内最大規模の国際協力イベント「グローバルフェスタ JAPAN」が開催されている。

1962 年には、国をあげた国際協力の実施に向けて JICA の前身が創設され、1974 年に JICA が創設された。さらに 2008 年には、国際協力銀行の一部との統合で現在の組織に。途上国に対して開発資金の貸し付けなどを行う「有償資金協力」から、病院や学校の設立、電気や水道、道路といったインフラの整備などを無償で援助する「無償資金協力」、途上国の人材育成を目的に日本人の専門家やボランティアを派遣する「技術協力」などインクルーシブな支援メニューをそろえた、二国間援助では世界最大規模の機関となった。

近年ますます日本企業の海外進出、それも途上国や新興市場でのビジネス展開が活発化しているが、その背景には現地の経済発展がもたらすマーケットの拡大や、インフラ整備による工場進出の促進がある。そして何より半世紀以上にわたる国際協力のたまものである国同士の「友情の輪」が大きく寄与していることも忘れてはならない。

世界と日本が「元気の出る国際協力」。それが、JICA が目指す活動のキーワードだ。

国際協力の鍵は高い語学力と熱い人間力

JICA の海外拠点は、開発途上国を中心に 90 ヵ所余り。新入社員は入構した年の7～ 10 月には研修の一環として、そのいずれかの事務所に派遣される。

今回、お話しいただいた人事部の大塚卓哉さんいわく「下積みとして新人に雑巾がけをさせるようなものですね」とのこと。事務所業務の基本から、支援プロジェクトの現場体験もするこの研修はなかなかにハードらしい。

人事部の大塚卓哉さん

「協力隊員の活動体験の一環として、現地の住民と同じ衣食住環境の中で生活することもあります。英語はできても現地語をしゃべれる新人はまずいない。協力隊員は現地語ができるのはもちろん、その道のプロも多いですから『こんなこともできないのか!』と叱咤されることもあると聞いています」

そんな心の折れそうな環境で、JICA 職員としてのベースを鍛え上げるのが、この「海外オンザジョブトレーニング」の目的だ。

その後は約2年ごとの人事ローテーションでさまざまな部署を経験し、20 代のうちに初の海外駐在を経験。滞在期間はプロジェクトにもよるが、平均3年前後だという。

管理職への登用は 40 歳前後。この時点で、JICA の運営に携わる「マネジメント職群」と専門分野の第一人者の道を歩む「エキスパート職群」、この 2 つから JICA 職員としての生き方を選択することとなる。

また、「職員一人ひとりが専門性を持った国際協力のプロフェッショナル」であるために、新人から運営陣に至るまであらゆる階層を対象とした研修を実施しているのも JICA の大きな特徴のひとつ。

なかでも JICA 職員としてのコアスキルを集中的に習得する場としての「JICA アカデミー」は、三十数種類の講座から興味のあるものをチョイスして受講ができる。

そのほか入構4年目以降 40 歳未満の職員には、開発学の発祥の地であるイギリスの大学などへ留学できる長期研修制度もある。

もちろん語学は JICA 職員としてのマストなスキルだ。なかでも英語については、入構 1 年目、3 年目と英語力の基準が示されている。クリアできなくても「クビになることはありませんが、私からこっぴどく叱られます

JICA がケニアで手掛ける「理数科教育改善プロジェクト」では、小中の理数科教師を対象に、教育法の改善を指導する。写真は、研修を受けた教師の指導風景

Visit a Global Company

グローバル企業訪問

（笑）」と大塚さん。クリアしたのちは、フランス語やスペイン語など必要に応じた言語の習得へとステップアップするという。

「とは言え、採用の時点では語学はそれほど重要視していません。JICA の支援の目的は最終的に相手国の人たちと笑い合えること。そのためには明るく楽しく、そして時には激しいハートを持ってミッションに立ち向かっていかなければなりません。そのときに必要となってくるのが、幅広く深いコミュニケーション能力なんです」

JICA の活動範囲は世界各国。それも担当した国の政府要人から、末端の住民まであらゆる立場の人々とコミュニケーションしていかなければいけない。

さらに支援プロジェクトの実施にあたっては、国際機関や日本国政府、NGO など現地で汗を流すさまざまなパートナーと協調していく必要がある。

「よく面接で聞くのは、学生時代にサークル活動でも勉強でもなんでもいい。何かひとつのことに対して頭をフルに使って考えて、粉骨砕身アプローチして、その結果が成功にしろ失敗にしろ涙を流したことがあるかということです。そうした経験のある人は、やはりコアな部分でコミュニケーション力の高さを持っているんですよ。語学はもちろん道具として必須です。しかしそれを国際協力の場で使いこなすための鍵とするのは、一本筋が通った熱さです。理系でも文系でも、ましてや専攻も関係ありません。途上国支援に夢を持った人はぜひ JICA に来てほしいですね」

JICA

1962 年設立の海外技術協力事業団（OTCA）を改組して 1974 年に設立。2008 年には国際協力銀行（JBIC）の円借款部門と統合し、二国間では世界最大規模の援助機関となった。東京本部ほか国内 15 拠点、海外 90 以上の事務所を拠点に、世界 150 余りの開発途上国・地域への経済や社会、平和を支援する活動を展開。対象国の課題の調査から支援プロジェクトの構築、専門家や開発コンサルタント、ボランティアなどの人材確保や派遣までを一括して手掛け、日本と途上地域を繋ぐ架け橋となっている。

グローバル企業の先輩に聞く！

協議や食事で築いた信頼関係が支援活動をスムーズに進める

小森 明子 さん

JICA 人間開発部
基礎教育グループ 基礎教育第二課
兼 基礎教育第一課 主任調査役

2001年入構。2008年より４年にわたってパレスチナの農業開発プロジェクトを担当。帰国後、東京本部に配属。現在は「人間開発部」でケニア、ザンビア、マラウイ、モロッコの基礎教育支援に携わる。

Q　最初の海外駐在の支援内容について教えてください。

A　入構の年から海外出張は多かったのですが、7年目にようやく念願のパレスチナに赴任しました。同期に比べたら私はやや遅い初駐在だったのですが、帰国は昨年の9月末。平均よりも長い４年半を現地に駐在したことになりますね。私が携わったのは農業のプロジェクトです。ご存じのようにパレスチナはイスラエルの占領下にあって土地も水資源も限られています。さらに追い打ちをかけるようにウィルスによる土壌汚染のため、名産のスイカが育たなくなっていたんです。そこで JICA が招聘した農業の日本人専門家が提案したのが、病原菌に強く多くの収穫も期待できる接ぎ木の技術でした。接ぎ木はあまりお金をかけずにできる技術なので、農家の方々にも広く受け入れられて、全地域に導入されたんですよ。

Q　現地で苦労されたことは？

A　特に印象に残っているのが、先方政府の農業省との交渉です。JICA の事業内容や活動方針を理解してもらうのに時間がかかってしまい、プロジェクト開始も当初の予定より１年ほど遅れてしまいました。だけど何度も農業省に通い詰めて協議を重ねた結果、先方の局長さんをはじめ、多くの農業省職員の方々とよい信頼関係が築けたことは大きかったです。日本人専門家のオフィスも農業省の負担によりきれいにリノベーションしてくれるなど、プロジェクトが始まってからは本当にスムーズに事業を進めることができました。自分自身のコミュニケーションスキルも、あのときの交渉で一歩スキルアップできたのでは、と思っています。

Q　治安面で不安に感じたことは？

A　実際、JICA が支援を行なっている地域には情勢が不安定なところも少なくありません。パレスチナも私が赴任した4カ月後から、イスラエル軍による空爆が1カ月ほど続きました。私たち JICA 職員は空爆地から離れたところに住んでいましたが、現地スタッフは空爆地のガザ市に住んでいたので、毎日のように電話に張りついて安否確認をしていました。ときには日本では感じることのない緊張を強いられることもありますが、いつもそのような状態にあるわけではなく、日常は平穏そのものです。

Q　海外駐在ならではの喜びとは？

A　もともと異文化に興味があったので、その国の一員となって文化に触れられるのは楽しいですね。イスラム圏にはラマダンと呼ばれる断食の期間があるのですが、みんなが断食しているんだからと自分もなるべく我慢しました。現地職員から結婚式に招かれたこともあります。普段、イスラム教徒の女性は髪も肌も極力露出を避けているんですが、その彼女が華やかなドレスで登場した時は感動しましたね。またそういった文化を体験すると、プロジェクトを組み立てるときも現地の人々の思いを想像できるようになるんです。

Q　英語はもともと得意でしたか？

A　私は幼い頃から高校までの間、中東のサウジアラビア、エジプト、シリアに３年ずつ住んでおりまして、学校もアメリカンスクールに通っていたので英語は特に問題なかったんです。またこうした地域に暮らした経験も、途上国支援に興味を持ったきっかけでした。ただ反省しているのは、わりと町の人たちも英語ができたので、せっかくのチャンスにアラビア語を修得しなかったことです。もっと広い視野を持っていればよかったと、今になって反省しています。

Q　大学時代はどんな過ごし方を？

A　大学はアメリカのペンシルベニア州の片田舎の女子大で、各国からの留学生も多かったんです。彼らとネットワークを広げて、自分の国を紹介するイベントを開催したこともありました。私も日本食を作ったり、日本の風景をスライドで見せたりしましたね。それも駅の混雑やコンビニといった日常風景を。京都のお寺とか富士山といったイメージしかなかった外国人たちはビックリしていました。と同時に、日本への関心がもっと高くなったと言っていました。今も駐在をしていて感じるんですが、海外にいると違った視点から日本の良さや悪さに気付くことができます。現在はアフリカや中東の基礎教育を支援するプロジェクトに携わっているんですが、日本の教育システムや学校レベルでの取り組みの素晴らしいところをもっと伝えていきたいですね。

Q　最後に JICA に興味のある学生にアドバイスをお願いします。

A　異文化に関心のある人、国際協力を柱に実現したいことのあるアクティブな人だったら、JICA はとてもやりがいのある職場だと思います。JICA では自分のアイディアを上司や同僚にどんどん提案できる土壌があるんです。また、旅行ではなかなか行けない国に赴任できるのも貴重な体験ですね。私は現地の食べ物を食べられるのがとても楽しみで、出張中はなるべく日本食ではなく、現地の食事を食べるよう努めています。また食事の場で現地の人と会話をすると、相手の生活について理解が進みますし、協議していた相手から会議の場では言わなかった本音が聞けたりして、新たな発見があります。何事にも好奇心や探究心を持っている方なら、きっとどの国でも楽しめると思いますよ。

スイカ収穫祭を農民とともに祝った（前列右から３人目が小森さん）

小森さんのお仕事アイテム

「机に置いているネームプレートはパレスチナ焼きのもの。風呂敷は2カ月に１回の出張に手放せません。実用でも使えるし、現地の方にほしいと請われて差し上げることもあるんですよ」

Journalist's Eye

英字新聞記者の視点

日本のニュースを英語で発信しよう！

英字新聞 The Japan Times 記者が語る 日本の「今」を世界に伝えるための心得

——— Vol. 18 by Kazuaki Nagata

日本で起こっていることを外国人に伝えるときは、物事の背景を理解し、それを外国人にわかりやすく説明するスキルが求められる。このコーナーでは、英字新聞 The Japan Times の記者に登場していただき、記事をより深く理解し、自ら説明できるようになるためのコツを教えてもらう。今回は、ソニーの開発するユニークな技術と、日本に新しく入ってきたアジアのファッションブランドについて、永田一章記者に伺った。

韓国のファストファッションブランドMIXXOが日本初上陸。横浜と仙台に店舗をオープンした。
KAZUAKI NAGATA

■空中浮遊体験！ソニーのラボの新発明

On May 23, Sony Computer Science Laboratories Inc. held an open house event where researchers showed off their creativity and presented cutting-edge technology, which might someday have commercial applications and make it into the company's product lineups.

5月23日、ソニーコンピュータサイエンス研究所がオープンハウスのイベントを行い、研究者たちがその独創性を披露し、最新のテクノロジーを紹介した。いずれは商品化され、企業の商品リストに並ぶかもしれない。

今年で設立25周年を迎えたソニーコンピュータサイエンス研究所は、2年に1回オープンハウスを開き、新しい発明を社外に公開しています。研究者が30人ほどの小規模な研究所ですが、ここでは非常にユニークな開発が行われています。

災害時に役立つ「空飛ぶカメラ」

今回出展されていたものの一つに、「空飛ぶカメラ」があります。ヘリコプターのように飛ぶ小型カメラが、人の頭につけたモニターに映像を送り、あたかも自分が空を飛んでいるかのような体験ができるものです。このモニターはコントローラーの役目も果たしていて、人間が右を向くとカメラも右を向き、上を向くと上の映像を送ってきます。私も体験してみましたが、確かに実際に自分が空中を飛んでいるかのような気分を味わうことができました。カメラを自分の背後に飛ばすと、自分の背中を見ることができるという点も面白かったですね。

同研究所の暦本純一副所長によると、このカメラは将来、災害時の状況を確認するのに役立つのではないかということです。原子力発電の事故現場など人間が入りづらいエリアに飛ばすことができますし、地震や津波で家屋や建物が倒壊したときなど、トラックや作業用ロボットが乗り越えるのが難しい場所でも、「空飛ぶカメラ」であれば自由に観察することが可能です。

現在のところは屋内で上下数フロアにわたってリモートで操作することが可能になっているそうですが、これから屋外へ飛ばすことができるようになると、さらに目標とする用途に近づけるのではないかと思います。

キャラクターが登場する「萌家電」

もう一つ会場で注目を集めていたのは、PlayStationでリモートコントロールできるLEGOブロックです。LEGO社と共同で手掛けているプロジェクトで、例えばLEGOブロックで作った車を同じくブロックでできた街で走らせ、他の車と競争させるといったことができます。研究者のアレクシー・アンドレ氏は、「ゲームの中のあらかじめ用意されたストーリーで遊ぶのではなく、子どもたちは自分で物語を組み立てることができます。子どもが想像力を働かせて創意工夫することができる、まったく新しいタイプの遊びです」と語っていました。

そのほかユニークだったのは、スマート家電とキャラクターを組み合わせた「萌家電」です。今のエアコンはスマートフォンなどで温度調整することができますが、室温が高くなると“暑苦しい”キャラが登場するなど、アニメで遊びを加えています。また、現在デジタルカメラなどで使われている“笑顔を探知する機能”を利用し、「笑顔を見せると開く冷蔵庫」も開発されています。笑うという行為は普段のストレス解消に効果があり、このアイデアは単におもしろいというだけでなく、健康面でプラスになるようです。

このオープンハウスは関係者や報道陣にのみ公開されているものですが、日本のメーカーがこんな自由な発想で開発を行っているのだということを、ぜひもっと多くの人に知ってもらいたいと思います。

＊参考記事　http://www.japantimes.co.jp/news/2013/05/29/business/sony-lab-offers-peek-into-the-future/

■アジアのファストファッション到来！

In the competitive Japanese "fast fashion" market, two new Asian brands have recently come in to challenge domestic and Western rivals. South Korea-based Mixxo and Singapore's Charles & Keith have both launched stores here in the last few months.

競争の激しい日本の「ファストファッション」市場に、最近2つの新しいアジアのブランドが到来、国内と欧米の競合相手に挑戦している。韓国のMIXXO（ミッソ）とシンガポールのCharles & Keith（チャールズ&キース）は、両社ともに、ここ数カ月の間に日本に店舗を開いたのだ。

韓国のファストファッションの大手ブランドMIXXO（ミッソ）は、今年の3月、初めての日本店舗を横浜にオープン、4月には2号店を仙台に開きました。一方、世界各地に300以上の店舗を持つシンガポールの靴・バッグのブランドCharles & Keith（チャールズ＆キース）は、4月に原宿に旗艦店をオープンさせました。スペインのZARA、スウェーデンのH&M、そして日本のユニクロなど、競争の激しい日本のファストファッションの市場でどういう戦略を持って展開しようとしているのか、実際に店舗を訪ねて取材しました。

日本向けにサイズをそろえる

ファストファッションのブランドに共通しているのは、流行を取り入れた服を短い期間で大量に販売、一定以上の質の商品を低価格で提供している点です。

MIXXOは主に20～40代の女性をターゲットとし、カジュアルな服から落ち着いた雰囲気のものまで、品ぞろえが豊富な点が特徴です。一般にアジアの女性に合うような色やサイズを用意しているのですが、日本市場では特に、日本女性に合うサイズを意識してそろえているとのことでした。横浜ではそごう横浜店にブランドショップとしてはフロアで最大の500平方メートルもの売場を設置。店舗の雰囲気はZARAよりカジュアルではありますが、H&Mやユニクロよりやや高級感がある印象です。韓国発であるということを意識させるようなところはありません。MIXXOを出している韓国のイーランドは、すでに150のブランドと1万軒もの店舗を海外に広めている企業であり、世界的なブランドがまた一つ日本にやってきたと考えていいかと思います。

原宿に進出して知名度アップ

シンガポールのCharles & Keithはすでに横浜に店舗を持っていましたが、今回は東京・原宿のほぼ中心に出店。日本での知名度を一気に上げたいというねらいがあるようです。「原宿は世界で最もよく知られたショッピング地区の一つ。そこに出店できたことを、とてもうれしく思っています」と、Charles & Keithの責任者が語っていました。シンガポールではCharles & Keithの店舗はすべてショッピング・モールの中にあり、今回のような路面店を出すのは珍しいそうです。

Charles & Keithの店舗には高級感があり、一見、ファストファッションの店には思えません。しかし、中に入って値段を見てみるとほとんど3,000～8,000円で、その価格の低さが人気の秘訣になっているのでしょう。

MIXXOは2015年までに20～30の店舗を開くことを計画、SPAOというもう一つの主力ブランドも日本に進出します。Charles & Keithも今後3年の間に40店舗を開くそうです。今は珍しいアジア発のファッションも、日本ではこれからごく日常的なものになっていくのかもしれません。

＊参考記事　http://www.japantimes.co.jp/news/2013/05/30/business/fast-fashion-of-south-korea-singapore-arrives/

●今月の記者●
永田一章さん
KAZUAKI NAGATA
2007年ジャパンタイムズ入社。ビジネス、IT、エレクトロニクス関連を主に担当。原発問題についても定期的に取材を続けている。日本に進出するアジア企業の取材も行っている。

Special Feature
特別読み物

東京大学

グローバルコミュニケーション研究センターの挑戦〈後編〉

英語での発信力を高めるため、東京大学の理系の１年生全員が履修しているライティングプログラム「ALESS」。この春からは文系の１年生に向けて「ALESA」というプログラムが始まった。ALESS はこれまでどのような成果を上げているのか、ALESA の内容はどういったものなのか、東京大学グローバルコミュニケーション研究センターのトム・ガリー准教授に伺った。

東京大学駒場キャンパスの象徴である１号館

年々授業を改良、学生の支持を得る

東京大学で 2008 年から１年生の必修授業として行われている ALESS（Active Learning of English for Science Students）。学生たちが自分でテーマを選んで科学実験を行い、その成果を英語で論文にまとめ、プレゼンテーションも行うというものである。「現在は学内で高い評価を受けていますが、最初からすべてうまくいったというわけではありませんでした」と、グローバルコミュニケーション研究センターで、同プログラムのマネージング・ディレクターを務めるトム・ガリー准教授。ガリー准教授は2002 年から東京大学で英語を教え始め、ALESS 発足前からさまざまなパイロット授業を行い、プログラム開発に一から携わってきた。「例えば ALESS の授業には、書き上げた論文を学生同士で読んで意見を言う『ピア・レビュー』があります。日本の学生にとってはあまりなじみがなく、最初の年は『なぜ学生同士で論文を見るのか。講師の添削がほしい』といった声が多く寄せられました。ピア・レビューは、研究者同士が論文を読んで意見を交換するという、実際の研究過程に近いものなのですが、学生にはそれが伝わっていなかった。そこで、2 年目から『ピア・レビューとはこういうものである』というビデオを作って学生に見せるなどして、授業の改良に努めたのです」

そういった努力が功を奏し、最初は「とにかくきつい」といった感想が多かった ALESS の授業も、年を重ねるにつれ、「楽しい」「これは役に立つ」という声が目立つようになった。

英語力に関しては、入学当初、学生によって大きな違いがあるが、ALESS のように「論文を書く」という授業ではいかにうまく論旨を組み立てられるかといったことが求められるので、単語や文法の知識に関する違いは大きな問題にはならないそうだ。

「何か正解を出すために学ぶのではなく、テーマの選び方や論文のまとめ方など、創造力や創意工夫が大事になってきます。英語の授業ではありますが、単に語学のスキルを伸ばすということではなく、教養教育の一環として、科学的な考え方を養うプログラムにしたかったのです」

英語の授業専門の実験施設誕生

ALESS を担当するのはこのプログラムのために特別に採用された外国人講師らで、授業を改善するために、毎週のように会議を開いて話し合いを行っている。「教材は特定のものを作らず、それぞれの講師がプリントを用意します。ただ、自由にやっていいというわけではなく、各講師が作ったプリントは講師全員で共有して内容を確認し、人が作ったものを自分なりに改訂して使うこともあります」

科学実験に関しては当初これといったサポートを用意していなかったが、「やはり専用の設備が必要である」ということから、2011 年春に学内に「ALESS Lab」を設置。理系の大学院生が、実験の指導をしてくれる。「英語の授業で、顕微鏡まで設置されている Lab があるのは、世界でもここだけだと思います（笑）。１学期の間に 1,000 人を超える利用者があるほどの盛況ぶりを見せ、今後拡大することも検討されているそうだ。

また、ALESS の授業の成功を受けて、理系の３、４年生向けに Advanced ALESS という講義も行われるようになった。今後さらに多くの学生が ALESS の授業を経験することが期待されている。

来日して 30 年、日本語も堪能なトム・ガリー准教授

文系の学生向けの新プログラム始動

今年春から始まった ALESA（Active Learning of English for Students of the Arts）は、ALESS の方法論を生かした、文系の１年生の必修授業である。１クラス 15 人までの少人数制、自分でテーマを選んで論文を書き、学期末に口頭発表を行うという点は、ALESS と共通している。「理系の学生の多くは、大学院に進むと英語で論文を書くようになり、就職してからも研究者として英語で発表を行う機会があります。一方で、文系の学生は卒業後の進路がより多様なので、ALESA は英語の授業であると同時に、説得力のある論理の組み立て方を学び、それを発表する力を養うという場にしたいと考えています。実はこれは、日本語で文章をまとめるときにも役に立つ力だといえます」

例えば、日本の学生は、自分の意見や感想を文章にまとめることはできても、他者の反論を紹介し、それについてどう考えるかを伝えるといったことに慣れていない。将来、国際社会で広く通用するよう、ALESA では幅広い論旨の展開の仕方を指導しているそうだ。さらに、情報収集の仕方、リファレンス（参考文献）の参照の仕方など、学術論文として成立させるための知識も習得することができる。

「ALESA では実験を行うわけでなく、自ら調査を行ったり、過去の研究を比較したり、テーマの選び方も執筆材料の集め方も非常に自由です。歴史、文学、社会科学、美術など、分野も多岐にわたっています。過去のパイロット授業の例では、『ヨーロッパのモダン建築が日本の伝統的な建築から受けた影響』『19 世紀後半にイギリスで流行したタトゥーの日本との違いや社会的役割』といった、ユニークなものがありました。今年の１年生がどのようなテーマを出してくるか、楽しみにしています」

ALESS と同様、教材はオリジナルのプリントを使用。講師同士で共有し、随時改訂を行っていく。

科学論文の場合は「アブストラクト（要約）」「イントロダクション」「研究方法」「結果」など、一定の組み立て方が決まっているが、文系の論文の場合はそこまで定型化しているわけではないので、プリントを使ってさまざまな種類の文章を読みながら、それぞれの段落にどのような役割があるか、内容を集約したトピックセンテンスはどれかといったことを具体的に学んでいく。「日本で高校までに学ぶ英語は、リーディングと言っても、口語的な英語と論文の中間のようなもので、ほとんどの学生は、本格的な学術論文に触れた機会がありません。海外の学会で通用するような文章の書き方を学ぶのは、学生にとって非常に意義があることだといえます。将来 NPO で調査報告書を書いたり、企業で海外の取引先に提出するレポートを書いたりする際に役立つはずです」

学期末の口頭発表も、ディベートやディスカッションなど、比較的自由な形で行うことを考えているそうだ。「東大でも1、２年生のうちは大教室で講義形式の授業を受けることが多く、学生同士でディスカッションを行う機会はほとんどありません。ALESA を通して、自分の意見を伝えるための発信力を養ってほしいと考えています」

トム・ガリー准教授 プロフィール

アメリカ、カリフォルニア州生まれ。シカゴ大学修士課程修了。1983 年来日、2002 年より東京大学で教鞭を執る。『英語のあや』（研究社）など語学に関する著書・訳書多数。

東京大学

東京都の本郷、駒場、千葉県の柏などにキャンパスを持つ。入学時はすべての学生が駒場キャンパスの教養学部に属し、教養課程の教育を受ける。教養学部には少数精鋭の後期課程（３・４年生）の「教養学科」があり、各界に優秀な人材を送り出している。

Learn About Industries

この業界を知りたい！

この業界を知りたい！

情報技術に関する業界を指して、IT業界と呼ぶことが多い。しかしその示すところは非常に幅広く、多岐にわたる企業によって構成されているのが実状だ。その中で今回は、電子部品や電子機器、コンピュータ等のメーカーによる業界団体であるJEITA（電子情報技術産業協会）で各種の委員を務める河内浩明さんにお話を伺った。

知識情報社会の血液として

JEITA（電子情報技術産業協会）は、2000年に、その前身であるEIAJ（日本電子機械工業会）とJEIDA（日本電子工業振興協会）という二つの団体が合併して誕生した団体だ。前身の2団体は、それぞれ民生用、産業用の製品を主な対象としてきたが、近年急速に両者の垣根が下がり、また共に高度化が進む中で合併に至った経緯がある。日進月歩の情報化を「モノ寄り」の立ち位置から支えてきた業界だと言えるだろう。

「とは言え、会員各社の事業内容も、時代と共に大きく変わってきました。以前はコンピュータを製造販売していた会社が、ソフトウェアやITソリューションサービス（ITによる課題解決ビジネス）へ軸足を移した会社もあります。しかし、そもそも今日では、ハードとソフトの両者が、渾然一体となりつつある、とも言えるのではないでしょうか」

そう話してくれたのは、JEITAの情報政策委員会に所属し、JEITA講座運営ワーキンググループの主査を務める河内浩明さん。ハードウェアは、それに組み込まれるソフトウェアを欠くことができず、一方のソフトウェアも、ターゲットとするハードウェアを念頭に置いた最適化が重要とされるなど、両者の関係は今日密接不可分なものになっている。

「“ハードが好きだから”とメーカーを志望して、首尾良く入社できたとしても、業務はソフトの開発という可能性もあるでしょうし、その逆もあるでしょう。もっとも、これは私たちの業界だけでなく、どんな仕事でも同じだと思いますけれども」と河内さん。

ではこの業界や、そこで働くということを、どう捉えたらよいのだろうか。

「現代は“知識情報社会”と言われますが、急速に変化する社会とその課題に立ち向かうために、莫大な量の情報や知識の利活用（獲得・蓄積・解析）が必要です。それを基盤として支えているのが情報技術です。目に見えるか見えないかを問わず、世の中のさまざまなものが、その背後で働く情報技術の恩恵を受けているのです。もしもそこで不具合が生じれば、電話やメールが使えなくなるだけでなく交通や経済など、社会のほぼすべての活動に影響が出ることになります。現代社会では、モノの流れもお金の流れも、何もかもが情報技術によって支えられています。かつてはお金が“社会の血液”と言われていましたが、今日ではその流れさえも情報技術で制御されている。すなわち、情報技術こそが現代社会の血液と言えます。そのように、社会全体を支える仕事なんだと考えてもらいたいですね」

「理工系離れ」への危機感

社会にとってそれほど重要な情報技術だが、あまりにも高度化し、同時にまるで空気のように当たり前の存在になったことから、別の問題が生じているという。

「私たちが懸念しているのが、いわゆる“理工系離れ”です。IT技術が当たり前のものになった半面、逆にブラックボックス化し縁遠いものになってしまっているのではないでしょうか。技術やサービスの利用者としてはそれで十分でしょうが、技術を生み出したり、進化させたりという私たちの仕事を考えれば、この分野への関心が薄れていくことは大きな危機なのです」

そうした危機感から2002年にスタートしたのがJEITA講座だ。これはJEITAの加盟各社から、各分野の一線で活躍する技術者や研究者が講師として各大学に出向き、現場での実体験を中心とした講義を実施。それを通じて、電子情報技術産業の将来を担う人材育成への貢献を目指している。

「JEITA講座は、いわゆる通常の寄付講座とは違って、特定の技術そのものより『技術の面白さ』を伝えることに重きを置いてきました。大学で何を学んだらよいかという気づきを与えたり、私たちの業界で働くことの楽しさや意義を理解してもらったりすることが狙いだからです。ですが最近では大学側の要望もあり、より実践的な内容の講座など、カリキュラムも多様なものになってきました。それも産学連携の人材育成に対するニーズや関心の高まりによるものだと思っています」と河内さん。JEITA講座は今日、高校や中学での「出前授業」へと広がり、多くの若者たちに電子・情報技術への関心のタネをまき続けている。

「現在は東京や関西、中部、東北を中心に9つの大学でJEITA講座が開催されていますが、この他にJEITAの地域支部で行われているものもあり、いずれも好評です。また、学生や先生方からの評価もさることながら、JEITA会員企業の講師側からも、学生との交流が大変よい刺激になっているという声が挙がっています。」

“デジタルネイティブ”だからこそ

理工系離れが言われる一方、物心ついた時から情報機器に囲まれて育ち、それを当たり前の存在として使いこなす世代が、社会に羽ばたきつつある。いわゆる“デジタルネイティブ”だ。河内さんは、これからの社会を担う新しい世代に向け、こう語る。

「私たちの世代が思いもよらない使いこなし方や、新しい用途を生み出していくのは、きっとそうした新しい世代の人たちでしょう。だからこそ、これからの新しい時代に応えられる電子・情報技術を生み出していくのも、またそうした世代だと気概を持ってほしいと思います」

JEITA会員企業の社員が大学で講義を行う『JEITA講座』では、企業の第一線で活躍する技術者・研究者の熱意が、直接学生たちに届けられている。写真は中央大学大学院理工学研究科で沖電気工業からの講師が大学院生を対象に行ったJEITA講座の模様。（協力：中央大学大学院理工学研究科情報工学専攻）

ちなみにグローバル化が叫ばれるのは他業界と同様だが、例えば英語に対する意識には「技術」が絡んで特有の面があると言う。

「ビジネス英会話的なものが必要とされる場面もありますが、海外からの新しい技術情報の吸収や、国際的な学会や会議での情報発信において英語が必要とされることも多いですね。ただ、それは“知りたいこと”や“伝えるべきこと”があっての英語ですから、自分の興味関心や業務に関連づけて考えることができれば、心持ちが変わってくると思いますよ」

目的ではなく手段としての英語、それが明確に意識されているのも、技術が尊ばれるこの業界の特色と言えそうだ。

「世界から“クールジャパン”と言われるほど、技術を楽しみながら豊かなコンテンツを生み出すことに長けている私たち日本人。ものづくりが最後の砦というような悲壮感ではなく、自分たちのこれからを自分たちで創っていくんだと楽しむ気持ちで、私たちの仲間に加わってほしいですね」

一般社団法人　電子情報技術産業協会
http://www.jeita.or.jp/

世界基準のビジネス英語能力テスト
BULATS
The Business Language Testing Service
世界約47カ国1,172団体、
日本でもすでに350以上の企業・団体が採用
詳細は www.eiken.or.jp/bulats
お問い合わせ　tel 03-3266-6366
mail stepbulats@eiken.or.jp

Columns

IELTS Hot News ／アゴス・ジャパンに聞く

IELTS *Hot News*

今回はIELTSの最新ニュースを2本お届けする。一つ目は、世界におけるIELTS受験者数が200万人を超えたというニュース。もう一つは、東京大学がIELTSの団体受験を開始するというニュースだ。いまやIELTSは、英語力を世界へ証明する際に欠かせないテストとなっている。

IELTS の年間受験者数が 200 万人を突破

IELTS の受験者が、世界でますます増えている。大学など高等教育機関への入学や英語圏への移住の際に、自らの英語力を証明するためのテストとして、IELTS は過去 20 年近くにわたり、受験者数を伸ばしてきた。その伸びは近年、拍車がかかっており、昨年から今年にかけての 1 年間では、ついに受験者数が200万人を突破した。これは、前年比に比べると 11%の伸び率だ。

ここまで世界で IELTS が受け入れられている背景には、IELTS が受験者の英語コミュニケーション能力を正確に反映するテストとして評価されていることが大きい。ライティングテストは、選択式ではなく記述式だ。また、スピーキングテストでは、試験官と実際に対面する。こうした試験方法は、時に受験者にとってチャレンジングなものとなる。しかし、インタラクティブな英語力を測ることができるという観点から、大学や政府など試験を採用する側の信任が厚い。

IELTS を入試認定している世界の名門大学

イエール大学	テキサス大学オースティン校
インペリアル・カレッジ・ロンドン	デューク大学
オックスフォード大学	東京大学
カーネギーメロン大学	トロント大学
カリフォルニア工科大学	ノースウェスタン大学
カリフォルニア大学バークレー校	ハーバード大学
カリフォルニア大学ロサンゼルス校 UCLA	ブリティッシュコロンビア大学
ケンブリッジ大学	プリンストン大学
コーネル大学	ペンシルバニア大学
コロンビア大学	マサチューセッツ工科大学
シカゴ大学	ミシガン大学
ジョージア工科大学	メルボルン大学
ジョン・ホプキンス大学	ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン
シンガポール国立大学	ワシントン大学
チューリッヒ工科大学	ほか

採用機関が多く、利便性の高いテスト

受験者数の増加は、つまりは、IELTS を採用している機関が増えているということの証しだ。その数は、いまや世界 135 カ国、8,000 以上の大学や研究機関に上る。そのうち、3,000 以上はアメリカ国内の機関だ。

今回の 200 万人突破の発表に合わせて、IELTS USA のザック・ジョンソン CEO は「アメリカへ進学するために IELTS を受験する人々は世界で増え続けています。また、アメリカの大学もこのトレンドに合わせるように、英語力証明試験として IELTS を採用するところが増えています。今、アメリカのトップ 25 の大学は例外なく、IELTS を採用しているのです」とコメントした。IELTS と言えば、イギリスやオーストラリアのイメージが強かったが、いまやアメリカ留学でも IELTS が当たり前の時代なのだ。

このように、IELTS を受ければ、海外進学に際する選択の幅は広い。実施機関側だけでなく、なにより受験者にとってメリットが大きい。中国やインド、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、トルコなどの国では現在、英語圏へ留学をする人たちが爆発的に増えている。IELTS の受験者数が激増している要因の一つには、こうした国々で IELTS が最も利便性の高い、標準的な英語力証明試験として受け入れられていることがあるのだ。

年間受験者数 200 万人を突破し、いまや世界最大の英語力証明試験として確固たる地位を築いた IELTS。日本でも、この 3 年ほどで、受験者を約3倍に伸ばしている。グローバル化がますます促進するこの時代だからこそ、一度自分の立ち位置を測るために、受験してみるのも良いかもしれない。

東京大学が今年度から IELTS を導入

東京大学が、英語教育の成果を測るため、今年度から IELTS を導入することが決まった。新入生の中から、希望者 300 名を募り、1 年生の冬学期と 2 年生の冬学期に IELTS を 1 回ずつ受験させる。受験料は、大学側が全額負担する。

東京大学は、近年、大学の国際化に力を入れている。学部国際化教育プログラム PEAK を 2012 年度から開始したほか、理系学生向けのライティングプログラム ALESS やその文系版である ALESA なども 1 年生を対象にした必修授業として行っている。

こうした取り組みの一環として、教養課程における英語教育がしっかりと機能しているかどうかを検証することも重要だ。東京大学では、IELTS が単に知識だけでは解けない記述式のテストである点や自分の意見をしっかりと表現する力が求められる点、また対話式のスピーキングテストを実施している点などを評価。英語教育の成果を測る指標として IELTS の導入を決めた。

自由民主党の教育再生実行本部が大学入試の受験基準として TOEFL を採用することを提言し、話題を呼んだのは記憶に新しい。ややもすると、学生の英語力を測るには TOEFL が優れているかのような誤解を与えそうな政府の提言ではあったが、その直後に東京大学が選んだのは IELTS だった。

アゴス・ジャパンに聞く

海外の気になる学部

震災や原子力事故、経済・金融危機、テロ、外交上の緊張など、様々な緊急事態を想定した危機管理対策は国の重要課題の一つです。日本では、東日本大震災により、早急の優先課題として自治体による防災対策、復旧・復興対策が進められています。しかし総合的な政策として実施するには、専門家の養成が必須となります。海外の教育機関ではどのようなコースが提供されているのか気になるところです。

by 株式会社アゴス・ジャパン
後藤道代

危機管理の専門家を大学で養成する米国

2001年に起きた「米国同時多発テロ事件」により、世界貿易センタービルに、ハイジャックされた航空機が衝突し爆発炎上する映像が放映され、世界中に震撼が走りました。2005年には、米国南部を超大型ハリケーン「カトリーナ」が襲い、ルイジアナ州ニューオーリンズの８割が水没するという多大な被害をもたらしました。また、2007年に起きたアメリカの住宅バブル崩壊は、世界経済に甚大な影響を及ぼしました。

国際的に強大な影響力を持つ米国では、危機管理に関わるリサーチや専門家の養成が行われています。政治の中枢であるワシントンD.C.には連邦機関に加え、世界銀行、国際通貨基金（IMF）などの国際機関も集まっています。そのワシントンD.C.に、Crisis, Disaster and Risk Managementの専門研究所や専門家養成のための大学院レベルの学位コースがいくつかあります。

ジョージ・ワシントン大学で1994年に設立された研究機関、Institute for Crisis, Disaster and Risk Managementは、工学、医学、国際関係学部にまたがる教育機関です。連邦政府、州政府、自治体や非政府機関などと連携しながら理論と実践を両立し、専門家を養成しています。

必須科目として、「情報システム管理」や「財務管理」「不確実性下における意思決定」などがあり、情報システムに精通することが基本となります。国土安全保障のためには、いち早く情報をキャッチし、データ分析を行い、危機を予測したり、ハッキングや事故から情報を守ることが必須だからです。

危機管理プログラムの重要性が問われる

選択科目は、IT技術、財務、医療、意思決定プロセス、脅威との対峙方法、指令の仕方など多岐にわたります。Geographic Information System for Emergency ManagementやManagement of Risk and Vulnerability for Hazards and Terrorismは人工衛星や踏査などからのデータをリアルタイムで編集したりシミュレーションし、災害やテロなどが起きた場合、被害の対象地域を特定したり、被害の大きさを推測する技術を学ぶコースです。Medical and Public Health Emergency Managementというコースでは、緊急事態において、専門医療関係者以外の管理者が持つべきスキルや、現場で起こり得る公衆衛生や心理・行動障害について学びます。Disaster Recovery and Organizational Continuityというコースには、民間組織や自治体との連携の仕方や、被災後の環境への影響についての内容も含まれます。

Management of Terrorism Preparedness and Responseでは、非常事態宣言と厳戒態勢の指令方法、テロに対する国としての対応の仕方など、国家レベルの組織の緊急時判断や対応をケーススタディーを通して学びます。また、International Disaster Managementは、国際的な危機問題から世界で起きる災害や事故に対して、活動の中心となる専門機関やポリシー、オペレーションに必要なものを学び、いざという時に瞬時に対応できるように準備をするコースです。

このような危機管理プログラムは、予測不可能と思われる災害や危機を、最新技術と事例の分析で予測し、対応策を準備することを目的としています。日本では、2011年の東日本大震災により、防災対策、復旧・復興対策、危機管理対策が十分でないことが明らかになりました。その重要性を再認識し、政策研究大学院大学（GRIPS）で、防災・復興・危機管理プログラムが提供されるようになりました。今後さらに充実する分野と言えるでしょう。

〈危機管理コースをもつ他の大学〉

Georgetown University (US)
Harvard Kennedy School (US)
University of Texas, Austin (US)
University of Manchester (UK)
University College London (UK)

株式会社アゴス・ジャパン
大学・大学院留学のテスト対策、出願対策の指導専門校。トップ校合格に必要な各種英語テストの攻略法および出願カウンセリング指導により、過去３年間で約 2,500 件以上という、圧倒的な合格実績を誇る。大学でのテスト対策講座なども行っている。

■東大生の留学体験記を無料で！
iPhone・iPad アプリ「東大より留学」
https://itunes.apple.com/jp/app/id568008104

後藤 道代（ごとう みちよ）

留学カウンセラー歴 18 年、アゴス・ジャパン学部留学担当、インディアナ大学教育大学院、言語教育学修士、ブリティッシュ・カウンシル公式資格取得カウンセラー

News in English

英文記事を読んでみよう

This month's selections from The Japan Times

Shinto's *kami* and *jinja* seeking world acceptance

Minoru Matsutani
STAFF WRITER

Ise Jingu (伊勢神宮, Ise Jingu Shrine) has recently published a *sasshi* (冊子, booklet) in English, titled "Soul of Japan — An Introduction to Shinto and Ise Jingu."

The news was picked up by some Japanese media because the shrine used, for the first time, words such as *kami* (神, god or deity), *matsuri* (祭り, festival) and *jinja* (神社, shrine), rendering them untranslated in *romaji* (ローマ字, Roman letters), instead of using their English equivalents.

Ise Jingu and Jinja Honcho (神社本庁, Association of Shinto Shrines) published the booklet in April. Their aim is to make Shinto-related words such as *kami* known to the outside world, just as judo (柔道) and ninja (忍者) already are.

While it is doubtful that *jinja* will suddenly be erected in Europe or that *anime* featuring *kami* and *matsuri* will be aired on Saturday-morning cartoon programs, Ise Jingu's *tantōsha* (担当者, person in charge) thinks that *ki wa jukushita* (機は熟した, the time is ripe).

"(The word) Shinto has already become known. It is time for us to *sekkyokuteki ni* (積極的に, proactively) *hasshin suru* (発信する, transmit) other words related to *jinja* and Shinto so their *honrai no* (本来の, true) meaning can be widely understood," an Ise Jingu spokesman said.

The "Soul of Japan" says that a deity is a god in a *tashinronteki* (多神論的, polytheistic) belief system, and thus deity is a somewhat appropriate translation of kami. However, Ise Jingu and Jinja Honcho want to differentiate *kami* from the deities of other religions.

"It's not wrong to say *kami* are Shinto deities. But a deity is not a very common word, and we thought using the word *kami* was more appropriate. So we may as well spread the word '*kami*,' and want people in the world to know *kami* as *kami*," the spokesman said.

Moreover, in explaining to Japanese people what a god or a deity is, we probably have to use the word *kami* because there is no other better Japanese word. To clarify the difference between God and a deity in Japanese, you basically need to say that God is *isshinkyō no kami* (一神教の神, monotheistic "God") and that a deity is *tashinkyo no kami* (多神教の神, a polytheistic deity).

After Ise Jingu and Jinja Honcho published the booklet, all other *jinja* in Japan will probably follow suit because the two bodies are effectively the official organizations for Shinto shrines. The city of Ise in Mie Prefecture changed its traffic signs in line with the English of the booklet.

The booklet explains that Shinto teaches that there are *kami* in the mountains, forests and other things. There are *yaoyorozu no kami* (八百万の神, 8 million kami), as the saying goes. Mountains and forests are the origin of *jinja*, the booklet explains.

Kami derived from nature, such as the *kami* of rain, the *kami* of wind, the *kami* of the mountains, the kami of the sea and the kami of thunder have a deep relationship with our lives and profound influence over our activities. Individuals who have made a great contribution to the state or society may also be enshrined and revered as *kami*, according to the booklet.

The word of god: Officials at Ise Jingu hope to encourage English speakers to use the Shinto terms *kami*, *matsuri* and *jinja* rather than their translations. FLICKR/AJARI

Through text and illustrations, the booklet also shows, how to perform the *temizu* (手水, purifying one's hands and mouth with a wooden dipper before approaching the main sanctuary of a shrine, basically the act of washing hands and gargling) and the etiquette when praying to *kami*. Shrines usually have stone water basins for *temizu*.

On the J-Cast News website a *gengogaku senmon no daigakukyōju* (言語学専門の大学教授, professor specializing in linguistics) said that words describing a Japanese concept that does not exist outside Japan are easily absorbed into English. For example, the term *emoji* (絵文字, a combination of letters that looks like a drawing) is often used in English.

Interestingly, Toyota Motor Corp.'s *kaizen* (改善, improvement) concept is now used in English, the website says. The word *kaizen* drew attention when Japanese automakers outperformed global rivals , such as General Motors, in the 2000s and the global automobile industry were trying to learn from Toyota's business methods.

Linguistic experts also say that such Japanese English words tend to be adopted if they are *shikaku ni uttaeru mono* (視覚に訴えるもの, literally, something appealing to the sight, but actually a tangible thing) or *jissai ni taikan dekiru mono* (実際に体感できるもの, something you can actually experience).

For example, the words "*anime*" and "*manga*" are now used worldwide because people can watch and read them. And the Japanese word "tsunami" became a universal word after the English term "tidal wave" failed to correctly describe the horrors people saw after the 2004 Indian Ocean tsunami.

It is unknown if *kami* and *jinja* will reach the same level of recognition as ninja and judo. But those words will certainly spread little by little if *Shinto kankeisha* (神道関係者, people involved in the world of Shinto) continue to spread their gospel.

Baggio impressed by Japan's progress in soccer

Andrew McKirdy
STAFF WRITER

Italian soccer legend Roberto Baggio has paid tribute to the strides Japan has made under manager Alberto Zaccheroni.

Japan became the first team to qualify for the 2014 World Cup in Brazil after drawing 1-1 with Australia on June 4.

Former FIFA World Player of the Year Baggio knows what it takes to compete at the highest level, having played in three World Cups — including the glorious failure of missing the decisive penalty in the 1994 final shootout against Brazil — but the 46-year-old believes Japan can take heart from the improvements it has made since winning the Asian Cup just four months after Zaccheroni took charge in September 2010.

"They still have a lot of things they need to work on," Baggio said at the Foreign Correspondents' Club of Japan in Tokyo on June 8. "They have improved a lot since they won the Asian Cup, but they still have a lot of room to grow ... but Japan are moving in the right direction.

"I think it's great that Japan have qualified for the World Cup. I've been following what Zaccheroni has been doing, and I've been very impressed. But I'm supporting the Japan team rather than just Zaccheroni, and I wish them all the best of luck."

Baggio was in Japan to take part in an exhibition match at National Stadium on June 9 to celebrate the 20th anniversary of the J.League, with former Italian greats Franco Baresi, Christian Vieri and Salvatore Schillaci among those lining up against Japanese counterparts including Ruy Ramos, Tetsuji Hashiratani and Tsuyoshi Kitazawa.

Baggio has bittersweet memories of Japan, having missed out on a place on Italy's 2002 World Cup squad for what would have been his fourth tournament appearance, but the former Juventus, AC Milan and Inter Milan forward revealed his association with the country could have taken a markedly different path.

"In 2000, I had an offer to come to the J. League," he said. "At the time I decided against it because my aim was to get into the Italian national team to come to Japan and South Korea and play in my fourth World Cup. I wanted that to be the time that I played in Japan, but looking back now, maybe I should have taken the offer."

For all his many successes on the pitch, however, Baggio is perhaps just as well known for his lifestyle off it. "The Divine Ponytail," as he was known throughout his playing days, converted to Buddhism after suffering a serious injury early in his career, and his faith played a crucial role as he fought back to fulfill his ambitions before retiring in 2004 at the age of 37.

"I was told I would never play again," said Baggio, who scored 27 goals in 56 appearances for Italy. "I saw a lot of doctors, and they all told me that I would never play again. If I had listened to them and hadn't listened to how I felt inside, I wouldn't be here now. For this reason, I feel that Buddhism has made me understand that I have to believe what is inside me.

Back in the spotlight: Retired Italian soccer star Roberto Baggio speaks at the Foreign Correspondents' Club of Japan in Tokyo on June 8. KYODO

"I've been a Buddhist for 25 years, and my life has changed completely. It has been a very positive experience for me. Everyone should find their own philosophy and do whatever makes them happy."

Baggio is currently a free agent after leaving his position as technical director of the Italian federation in January, but the U.N. goodwill ambassador and noted humanitarian is keeping an open mind with regards to his next move.

"At this moment in my life I have nothing particular in mind," he said. "It's not something I've given any thought to."

Studying Abroad in the U.S.A.

私の米国留学

Studying Abroad in the **U.S.A.**

私の米国留学

アメリカ留学も**IELTS**™の時代へ

～ IELTS はアメリカの約 3,000 の大学・プログラムで認定されています～

アメリカの大学や大学院では、これまで多くの日本人学生が学んできました。そして現在もまた、夢を抱いた学生たちが留学しています。彼らはどんな留学生活を送り、留学で何を感じたのでしょうか。このコーナーでは、留学経験者や現在留学中の学生に、留学の様子やメリット、英語学習、アメリカの魅力などについて伺います。

本コラムは以下の 2 団体の協力により連載をしております。

■ JGSAU(米国大学院学生会)http://gakuiryugaku.net/ ■ USCANJ(アメリカ学部卒業生ネットワーク)http://www.uscanj.net/

学ぶことの喜びを知って

ポモナ大学　**為房 千紘**さん

運命の出会い

高校 3 年の夏。部長や指揮者として打ち込んできた吹奏楽部を引退し、受験勉強に専念するはずが、私は進路に疑問を抱いていました。周りの勧めで何となく理系を選んで塾に通っていたある日、私は高校の国際部の先生と廊下でバッタリ会い、ポモナ大学を卒業した先輩の体験談を聞くよう誘われました。海外の大学など考えもせず、聞いたこともないポモナ大学に興味はなかったのですが、気分転換にと聞きに行き、私の人生は変わったのです。

学生数が少なく教授との距離が近い、一年中ビーチサンダルで過ごせる、ポモナ大学はいくつかの大学とキャンパスを共有し、総合大学並みの施設がある……。あまりにも魅力的な話に、気づいたらポモナ大学に惹かれている自分がいました。そして、11 月の Early Decision に向けて 3 カ月で準備をし、入学の機会を得たのでした。

Freshman を終えて

初めから海外の大学への進学を目指していた人とは違い、私は高校の GPA※1 もあまり良くなかった上に SAT※2 の成績も良いと言える点数ではありませんでした。せっかく入学してもドロップアウトするのではないかと心配でしたが、途中で挫折したら恥ずかしくて日本のみんなに顔向けできないと思い、必死で勉強しました。2 学期目には少し気持ちに余裕ができ、大学で最も難しいと言われる 3、4 年生向けの授業にチャレンジし、キャンパス内でアルバイトをするなどしてきました。教授たちに勉強や日常の悩みを聞いてもらうこともあります。いろいろな場所、人種、階級の人と同じ屋根の下で過ごすことで、世界を知ると同時に、日本のことも深く知ることができました。試練の多い 1 年間でしたが、ポモナ大学に来て本当に良かったと思います。

3月初めにもかかわらず桜が満開で、夏のような格好で過ごせる南カリフォルニア

あの日、もし国際部の先生に会わず、先輩のお話を聞かなかったら、自分は一生「学ぶことの喜び」を知り得なかったに違いないと思っています。

為房 千紘さん プロフィール

6 歳から 11 歳まで米国で過ごす。帰国後、渋谷教育学園幕張中学校に入学。同高2年時に、サクソフォンで全国大会に出場。卒業後、ポモナ大学へ進学。

※1 GPA：Grade point avarage　※2 SAT：Scholastic Assesment Test

アメリカの魅力とは

マサチューセッツ工科大学大学院　**磯貝 友希**さん

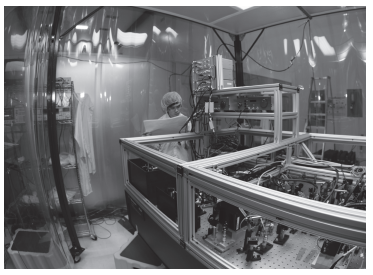
平等な機会を与えられて

僕はひょんなことから大学 2 年生の時に物理学の研究を始めました。国際関係学を専攻するつもりで、物理の知識はほとんどなかったのですが、結果を出すにつれ、一流大学の教授たちと対等に話をさせてもらったり、学会に出る機会を与えられたり、論文を書く機会を得たりもしました。外国人で、文系であり、学部生であるという立場とは関係なく、アメリカならではの、いい意味での実力主義の下の平等が可能にしてくれたのだと思います。それでいて権威主義に陥ることなく、ノーベル受賞者に対してでさえ、間違いだと思えば、学生でも指摘できる空気があります。教授や先輩も含めて対等に接することができるのは、敬語を使わない文化も関係しているのかもしれません。地位にかかわらず対等な議論を交わすことは、日本から来たばかりの僕にはとても新鮮でした。

失敗を乗り越え自信に

アメリカには、挑戦しないで失敗しない人より、挑戦して失敗した人を評価する風土があります。研究室に入ってすぐに高額の実験器具を壊してしまわないか怯えていたところ、教授にこう言われたことがあります。

「新人によくある間違いは失敗を恐れることだ。もちろんできる限り失敗は避けるべきだが、それでもこれからたくさんの失敗をするだろう。でもその失敗から学んで成長している限り気にすることはない。科学とは世界でまだ誰もしていないことをすることだ。むしろ何も失敗していないとすれば、給料分一生懸命働いていないと思ったほうがいい」



研究室で試行錯誤中

失敗が許容される文化もアメリカン・ドリームを踏襲しています。そんな環境に誘われてか、アメリカの一流大学には世界中から優秀な人材が集まります。僕が参加している研究でも、多くの外国人が日々切磋琢磨しています。留学で得られる一番の収穫は、ここで通用する力を身につければ世界のどこでも通用するという自信だと思います。

磯貝友希さん プロフィール

麻布高等学校在学中、1 年間米国の私立高校へ交換留学。カールトン大学を卒業し、現在マサチューセッツ工科大学大学院で重力波物理学の研究中。

JTスタッフがオススメする

読んでほしいこの3冊

世界で活躍するには、語学力のみならず、人間の奥深さも大切。読書を通じて、見聞を広めよう。このコラムでは毎回、ジャパンタイムズのスタッフが大学生に向けてお薦めする本をご紹介します。

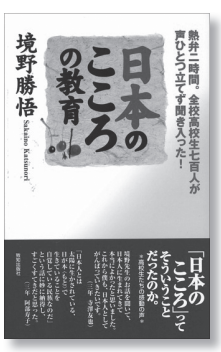
●今月の推選人●

広告管理部　関戸 秀和（せきど ひでかず）

オススメ 1 日本のこころの教育

「こんにちは」「さようなら」の語源を知っていますか？ 普段何気なく使っている言葉に「日本人とは何か」が潜んでいる。東洋思想家として日本の伝統文化に造詣の深い著者が、「日本のこころの教育」という演題で、岩手県にある私立花巻東高校の全校生徒を対象に行い、感動をよんだ講演をもとに構成。日本に生まれたことを誇りに思うことのできる一冊です。

境野勝悟（致知出版社）



オススメ 2 世界一プロ・ゲーマーの「仕事術」勝ち続ける意志力

ゲームファンから「神」と崇められ、「世界一長く賞金を稼いでいるプロ・ゲーマー」としてギネスブックに認定されている伝説のゲーマーが、初めて熱い想いを語る。ゲームなんてただの娯楽に過ぎないと思われていた時代に人生のすべてをゲームにかけたプロ・ゲーマーの自叙伝。「勝ち続けるためには」「自分を向上させるためには」どうしたらいいかを常に考え続けている彼の信念とそこから生まれてくる人生訓がすばらしい。

梅原大吾（小学館）

オススメ 3 新装版 ほぼ日の就職論「はたらきたい。」（ほぼ日ブックス）

民間の人事専門家や、キャリア論の研究者など「就職のプロフェッショナル」だけでなく、漫画家やミュージシャンなど多様なジャンルの方と糸井重里の対話をまとめた「ほぼ日刊イトイ新聞」の就職論。「はたらくこと」って、どういうことなのか。それは「大切にしてきたもの」を考えることで、見えてくる。「はたらく」を考えるエッセンスがたくさん詰まっています。

ほぼ日刊イトイ新聞著、編集／糸井重里 監修（東京糸井重里事務所）

Study Abroad Benefits

留学で培う３つの力

留学で培う3つの力

Vol. 5

London School of Economics and Political Science, LSE 藤川 健太郎

留学は異文化に触れ、多様な価値観に出会う機会となる。このコーナーでは「IELTS 北米奨学金」「IELTS Study UK 奨学金」の受賞者たちに、留学で培った３つの力について語ってもらう。今回は London School of Economics and Political Science の藤川健太郎さんに話を伺った。

私は 2012 年 10 月より１年間、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）の MSc 比較政治学（紛争研究コース）に在籍し、主に内戦やマイノリティ問題について勉強しています。2012 年3月に東京大学法学部（公法コース）を卒業した私は、法学政治学研究科に進学しました。学部時代から、現代世界における最大の問題の一つであり、多大な人権侵害を伴う内戦をどのように終結させるかに関心を持っているのですが、日本ではあまり深く学べない内戦についての理解を深めようと、東京大学を1年間休学し留学することに決めたのです。

◎仮説思考力

日本においてもゼミ論文などを執筆する機会は何度かあったのですが、一度に執筆する論文はせいぜい1万字から2万字の論文2本程度でした。しかしLSEでは、常に3本から4本程度の論文を抱えています。英文1万 wordsの修士論文に加え、評価が5,000wordsのエッセイ1本で決まる授業を私は2つとっています。さらに3,000wordsのエッセイを2本、1,500words程度のエッセイを数本提出する必要があります。

よい仮説を思いつくまでには、ある程度論文を読まなくてはなりませんし、一度思いついた仮説も事例研究を深めたり、新たな論文を読んだりするうちにしばしば変更を迫られます。歩いて買い物に行く途中も、夜ベッドに入って寝つくまでも、勉強をしている合間にも、仮説をどうすればよりよいものにすることができるか、考え続けています。

ある程度仮説が固まると、教授にアポイントメントをとって自分の仮説について話します。授業によっては友達同士で仮説を話し合うことも奨励されます。相手を前にして自ら発話するという行為によって、自分の議論の問題点に気づくこともあります。秋学期には5,000wordsのエッセイの基となる2,000wordsのエッセイを執筆する機会があり、その論文の仮説を最終的に決めるまでの約１カ月の間に３回教授とお会いしました。その間、2度にわたり扱う仮説を変更しています。その授業は、主にsecuritization theoryというコンストラクティヴィズムの一流派に則りマイノリティ問題や民族浄化、ジェノサイド、自決権の問題を考えるというテーマでした。

授業風景（国連安保理のシミュレーション中）

当初私は旧ユーゴや旧ソ連において、独立の是非を決める国民投票が紛争に与える影響について関心があったのですが、そこから国際社会による旧ユーゴ介入の際のspeech-act（securitization theoryにおいて中核の一つをなす概念）に関心が移りました。そこからさらに、もともと国内政治を説明するために用いるsecuritization theoryは国際政治に適用可能か、という主題を見つけだしました。

このようにトピックを何度か変更したのは私だけではなく、同じように2度トピックを変更した友人もいました。

◎単身生活力

実家が埼玉県だったので大学時代は家族と同居していました。現在は寮生活のため、平日は夕食が提供され、共同のトイレ・シャワールーム・キッチンは掃除する必要がないとはいえ、初めての単身生活を過ごしています。土日は3食、平日でも朝食と曜日によっては昼食も自炊するため、2日に一度ほどは近くのスーパーまで買い出しに行きます。いくつかのスーパーをはしごして、もっともお得な商品を探すこともしばしば。英国では3 for 2、Buy one Get one freeなどのセールが頻繁に開催されており、購入する時期を選ぶことで大幅に節約できるのです。時々、ロンドンのピカデリーサーカス付近にある日本食料品店にも赴きます。賞味期限切れ寸前か、切れてしまった食べ物が安価で売られており、そういった品を買うこともあります。11月には賞味期限切れ間際のおもちと豆腐を入手しました。キッチン用品も必要に応じて少しずつ買いそろえています。キッチンでは備品の盗難が相次いでいるので、食事のたびにそれらキッチン用品は部屋からキッチンまで移動させています。

寮にて。友人たちとポットラックディナー

同じフロアの学生とポットラック式の各国料理パーティーを開くこともあり、水炊きやうどんなどの簡単な日本の家庭料理を作っています。彼らとは各国料理のおいしいレストランの情報を交換することもあり、私は安くておいしい日本食レストランを探して情報提供しています。

洗濯は、１週間に２度ほどまとめて行っています。洗濯機は５台、乾燥機は6台あり、夕方以降でなければだいたい利用可能ですが故障がちです。また乾燥機に入れる場合はもちろん、洗濯機だけでも服が多少縮んでしまい、PRIMARKなどの格安衣料品店にていくつかの服を買い足しました。ワイシャツなどの乾かし方など、ウェブサイトを参考にしながら工夫するようにしています。

◎発言力

授業形態は、通常講義とゼミの組み合わせからなり、1〜2時間ほどのゼミに週3回出席しています。ゼミは15人前後の学生で構成され、日本と同様、学生同士や学生と教授とのやりとりによって進行します。米国の大学は学生の発言が活発でまるで戦場のよう、と留学中の友人が言っていましたが、英国では何人もの学生が競りあいながら発言する、というほどまでには自己主張は強くありません。その意味では日本の大学に近いのではないかと思います。15人のゼミのなかで、数名は1学期の授業期間中ほとんど発言がないくらいです。

私自身は毎回のゼミで最低一度は発言するように心がけています（もちろん見るべきところのない発言をしても仕方ありませんが）。というのは、私が発言しないことで日本人はあまり発言をしないと周囲に認識されることだけは避けたかったですし、そのような認識が既にあるなら、それを打破したいと考えているからです。でも、留学以前の私が多くの場合ゼミにおいて中心的な役割を果たしていたのに対し、単なる一学生という立場になり、かつ言語が英語になったため、当初はやや発言のタイミングを見失うこともありました。さらにLSEではさまざまな国家から学生が留学してきているため、手を挙げて指名を待ってから発言する学生、他の学生の話が終わり次第端的に発言を始める学生など、発言の始め方が多様であるという構造的な問題もあります。手を挙げて指名されてから発言するほうが礼儀正しい部分はあるのですが、教授が必ずしも挙手を認識しているとは限らず、教授や他の学生が先に話し始めてしまいトピックが移行してしまうと発言できない欠点があります。

最近の私は、沈黙が場を支配していれば挙手してから発言することもありますが、通常は挙手せずに発言しています。発言しなければゼミでの議論に貢献することはできませんし、自分の考えが伝わらないからです。そのように心がけた結果、議論にしっかりと加わることができていると感じています。

大学近くの日本料理チェーン店「wasabi」にてゼミの友人と

●IELTS 奨学金制度とは……IELTS 奨学金制度は、日本人の更なる国際化と文化・教育分野での交流促進、個々の受験生が抱いている夢の実現の援助を目的として設立されました。奨学生は、入学の際に求められる英語力をIELTSで証明したうえで、英国、米国またはカナダの大学・大学院への留学を開始することが求められます。IELTSで、未来への扉を開いてください。
2013年度応募詳細はブリティッシュ・カウンシルのサイトまで。http://www.britishcouncil.org/jp/japan.htm

University's Challenge

国際交流に取り組む大学

“ゼミの武蔵”の伝統を生かし学内で活発な国際交流を促進

武蔵大学

都心部の閑静な街・江古田に位置する武蔵大学。ゼミを中心とした小人数教育を特徴とし、学生同士、または学生と教員が互いに頻繁に交流できる環境が整っている。昨年秋にオープンした外国語や異文化を学ぶスペース「Musashi Communication Village（MCV）」設立の主旨などを、清水敦学長に伺った。

原則として日本語禁止の MCV。「Focus Area」では少人数の英会話レッスンを無料で受けられる

英語が公用語の異文化交流スペース

緑の多いキャンパスに新しく建てられた現代的な校舎。その一角に、外国語で交流するための場「Musashi Communication Village（MCV）」が設けられている。武蔵大学の学生ならば誰もが利用することのできる開放的なスペースだ。「教室の外で学生が主体的に外国語に触れられる場として、昨年10月にオープンしました。本学の教育目標のひとつである『自ら調べ自ら考える』に基づき、学生が自ら利用法を提案し、積極的に活用する場となってほしいと考えています」と、清水敦学長。「ゼミの武蔵」として少人数教育を大切にする同大らしく、学生個人または少人数のグループが活発に出会い、交流できるようになっている。

MCVの中では、基本的に日本語禁止。「FOCUS AREA」と呼ばれる広いスペースでは、常駐のネイティブスタッフと気軽な英会話を楽しんだり、英会話スクール講師らによる少人数の無料英会話レッスンを受けることができる。ここでは外国人留学生と一緒にハロウィーンやクリスマスパーティーなどを開き、生の英会話を体験すると同時に、異文化に触れる機会を得ることも可能だ。「RELAX AREA」には、外国語のゲームで遊んだり、英語の本やDVDを楽しむ学生の姿が。そして「WORKSHOP ROOM」では、外国語の学習相談や、英語でのクッキングクラスに参加できるようになっている。

清水学長によると「学生たちが自主的に参加できるよう、学生スタッフを採用しています。研修も行い、利用案内から各プログラム実施のサポートなどを通して、語学だけでなく、企画・実行する力も養っています」とのこと。スタッフの中には英語圏以外からの留学生もいるので、フランス語での交流も可能。気軽に異文化を体験できる場として、常時多くの学生が出入りしているそうだ。

ハロウィーンパーティーなどで異文化交流

テンプル大学ジャパンキャンパス（TUJ）の授業が受けられる

武蔵大学には現在「経済学部」「人文学部」「社会学部」の３つの学部があり、外国語科目は２年次まで必修、３年次以降も選択科目として学べるようになっている。「英語のクラスは入学時にテストを行い、到達度別のクラス編成にしているため、クラスの中での目標が立てやすくなっています。授業または課外講座の中で、英語力測定テストの対策も行っています」とのことだ。

アメリカのテンプル大学ジャパンキャンパス（TUJ）と協定を結び、昨年秋から、相互に授業を履修する試みも行われている。テンプル大学とは、アメリカのフィラデルフィアに本部を置くペンシルバニア州立大学。長い伝統を誇る総合大学で、TUJでは、アメリカ本校と同レベルの授業が英語で行われている。つまり、TUJで学ぶことで、一種の「国内留学」の環境が得られるのだ。しかも、TUJは文部科学省から正規の「外国大学の日本校」として認められている。「武蔵大学の授業を受けながら、一部TUJの授業を受けることもできますし、１学期または１年と、TUJだけに通うことも可能です。授業料の追加はなく、武蔵大学の授業料を払うことで、同時にテンプル大学の授業も体験できるのです」

夏休みにはTUJの外国人講師が武蔵大学で５日間の体験授業を行う「English Summer School」も実施。TUJの外国人学生もアシスタントとして参加することから、同年代の学生と英語で自由に話もできる。そしてこのEnglish Summer Schoolも、武蔵大学の単位として認定される。

海外留学のさまざまなチャンス

本格的な海外留学を希望する学生には、海外の協定校への留学制度がある。現在、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ドイツ、フランス、オランダ、韓国、中国、台湾に13の協定校があり、単位互換できることから、これらの大学に１年間留学しても、４年間で武蔵大学を卒業することが可能だ。「今後さらに協定校を増やし、利用者数を伸ばしていきたいと考えています」。夏休みまたは春休みを利用した協定校での短期語学留学制度もあり、１年次に短期語学留学をしながら留学準備をし、３年次で１年間の留学を実現させるという学生もいるそうだ。

留学を希望する学生には、事前に「留学準備講座」を実施。海外生活に困らないための基礎的な英語を身につけ、英語で授業を受けるための入門的な講義を行う。また、他の言語圏への留学を希望する学生のために、ドイツ語やフランス語の講座も開講している。

ユニークなのが、夏休みを利用して実施される「学生海外研修制度」。海外の社会情勢や文化などについて現地調査を行う学生に対し、大学が１人30万円まで奨学金を出す。過去には、アメリカのホームレス問題を調査した学生や、デンマークで障がい者の暮らしについて調べた学生など、テーマは多岐にわたる。「テーマや調査の仕方、報告書のまとめ方など、事前にしっかり準備をしてから出かけてもらうようにしています。現地では学生だけで行動しなければならないので大変だとは思いますが、海外の社会や生活について、自分の経験を通して学ぶ貴重な機会になっています」。帰国後には報告書を提出し、他の学生たちも参考にすることができる。

希望する学生は英語で行われる授業「East Asian Studies（EAS）」も受講することができる。東アジアの国際関係、経済、文化、社会などを総合的に学ぶもので、基本的には外国人留学生向けの授業だが、日本人学生も自由に受講することが可能。元外国大使経験者を客員教授に迎えるなどして、興味深い授業が行われている。留学からの帰国後にこの授業を受けることで、英語力を保持すると同時に、アジア圏に対するより広い視野を養うことができるだろう。

キャンパス内にある身近な国際交流

武蔵大学では、MCVと外国語教育を「外国語教育センター」が、留学や国際交流については「国際センター」が担当している。

そして、国際センターのもうひとつの大きな仕事が、武蔵大学に通う外国人留学生のケアだ。ここでは協定校からの留学生および自費留学生が学んでいるが、イギリスの大学から派遣されてきていても実は出身国は別だったり、英語よりも他の外国語のほうが得意だったりと、留学生のあり方もさまざま。そんな彼らが少しでも日本で暮らしやすいようにと、武蔵大学では日本人学生によるサポート「キャンパスメイト」を用意。学内での生活だけでなく、空港への出迎え、役所での手続き等、生活面にわたってさまざまなサポートを行う。また、留学生が日本人学生とともに東京近郊へ日帰り旅行へ行くフィールドトリップを毎月企画し、休暇中にはバスで泊まりがけの小旅行に出ることもあるそうだ。「留学生と交流することで、日本人学生も英語を使う機会が増え、外国人が隣にいることがごく当たり前になるなど、さまざまな効用があります。これらの機会を生かして、卒業までに、社会で役に立つ実践的なグローバル・コミュニケーション力を身につけてほしいと考えています」

武蔵大学

1922年に創設された旧制武蔵高等学校を前身とする。創設者は東武鉄道などを興した「鉄道王」根津嘉一郎（初代）氏。現在は３学部８学科の総合大学となっている。都心部の街・江古田にキャンパスを持ち、学習院大学、成蹊大学、成城大学とともに「東京四大学」と呼ばれる。

IELTS

テストのコツ

ブリティッシュ・カウンシルに聞く

IELTSテストのコツ

by David Parry

前回に続き、リーディングテストに関するテクニックを紹介します。今回も“言い換え”対策がいかにリーディングテスト、特に‘TRUE’‘FALSE’‘NOT GIVEN’形式の問題にも応用できるかを見ていきます。

リーディングテストのテキストにおいて、重要な情報やカギとなるポイントが、言葉や表現を変えて出てきた場合に、それに気づくことができるかどうかです。例えば、危機に瀕している動物に関するテキストが出題されたとします。質問では、「虎はどのように‘managed to survive’したか」と聞くかもしれません。しかし、テキスト内には同様の表現はなく、代わりに‘been able to avoid dying out’や‘escaped extinction’と表現されているかもしれないのです。

このような言い換えを認識することに難しさを感じる受験者もいると思いますが、大事なことですので、しっかりと対策を講じておきましょう。

TRUE / FALSE / NOT GIVEN から選ぶ

リーディングテストでは、出題にある提示文が本文テキスト内にある情報と合致するかどうかを問う問題があります。受験者はTRUE（合致する）、FALSE（合致しない）、NOT GIVEN（情報がないので判断不可）の3つの選択肢より答えを選びます。

TRUE	if the statement agrees with the information
FALSE	if the statement contradicts the information
NOT GIVEN	if there is no information on this

出題の提示文と同じことを意味する情報をテキストから探し出すことには時間がかかりますが、それをできる限り素早く見つけるテクニックについては前回お教えしました。問題は、それ以外です。提示文がテキスト内容と合致しない場合、そうと判断するまでには、より時間がかかります。また、提示文の内容がテキストでそもそも触れられていないと判断するためには、通常さらに時間が必要です。したがって受験者は、こうした神経を使う問題に対応するため、それなりのトレーニングをしておく必要があります。

言い換えを意識的に探す

例）

1. Endangered species are going to be discussed at the next global conference.
2. Large parts of the rain forest have been cut down to make way for farming.
3. The risk of extinction was only recognized at the end of the twentieth century.
4. Many species have managed to thrive despite ecological pressures.
5. The World Wildlife conference was only a partial success.
6. The problems of many developing countries have not been discussed because of political rivalries.

このような提示文があった場合、上記のようにキーワードに印をつけておくと頭を整理しやすいでしょう。これらの“言い換え”がテキスト内にないかどうかを意識的に探すのです。例えば、‘endangered species’は‘animals at risk’というように、‘global conference’は‘states getting together for an international meeting of minds’というような言い換えがなされているかもしれません。

人の意見や表現を自分の言葉に言い換えるスキルを培うには、多少時間がかかります。本番の2～3カ月ほど前から意識して、練習していきましょう。

新聞記事や参考書を活用しよう

こうした練習の一つとして、新聞記事の要約があります。好きな新聞記事から段落ごとにカギとなる言葉やフレーズを見ていき、あなたなりに同じ言葉を使わずにどのような説明ができるかを考えてみるのです。それぞれの要約自体は1、2センテンスで十分でしょう。

また、IELTS関連の参考書も役に立ちます。参考書の中には、キーワードをピックアップした上で、他の表現で言い換えてくれているようなものもあるでしょう。同義語強化につながります。他にも、参考書を使うメリットはあります。IELTSテストでは、科学調査などに関するテキストが出題され、調査方法や調査結果などに言及をする場合があります。そのため、受験者はデータや分析などに関連する語彙を養う必要があるのです。こうした科学分野の語彙力を鍛えるためには、やはり参考書がいいでしょう。科学分野に関する単語やフレーズを含んだ参考書はたくさん出ていますので、ぜひ活用しましょう。

難しい表現は不要

つけ加えますが、科学分野に関する言葉や表現は一般的にフォーマルでとっつきにくいものです。同じような言葉や表現を、科学技術関連や薬学、環境分野のトピック内でも見つけることでしょう。うんざりすることもあるかもしれませんが、あまり気にする必要はありません。IELTSでは、リーディングテストでそれらを認識できればいいだけです。こうした小難しい言葉や表現を、スピーキングやライティングテストで駆使する必要はないとわかれば、少しは安心しませんか？

しかし、せっかくリーディングテストを通じて、同義語や“言い換え”などを鍛えているわけですから、スピーキングテストやライティングテストにおいて、それらを能動的に試験官にアピールすることは有効でしょう。こうしたことも念頭に置きながら、リーディングテスト対策をすると、モチベーションアップにもつながります。

普段から英文に親しんでおく

何はともあれ、普段から英文に親しむ時間を持ちましょう。そして、常に、自分だったら同じ内容をどのように別の言葉やフレーズで表現できるだろうかと意識しましょう。また、本や自分の単語帳を駆使して、ひとつでも多くの同義語の組み合わせをものにできるようにしましょう。そうすれば、リーディングテストの効果的な対策になりますし、ライティング能力なども同時に向上することでしょう。がんばってください。

IELTSという名の国際免許証

IELTS（International English Language Testing System、アイエルツ）は、英語圏への留学や、移住を志す人の英語能力を評価するために作られたテストです。信頼性、公平性の高さからイギリス、オーストラリア、アメリカ、カナダを始め世界135カ国で約7,000の機関が、IELTSを受け入れ基準として認めています。2011年の全世界合計の受験者数は、170万人に達し、英語能力試験のグローバルリーダーの役割を果たしています。

日本では、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、岡山、福岡、札幌、仙台、金沢で受験する事ができます。

お問合せ・受験申し込みは、
公益財団法人 日本英語検定協会 IELTS事務局まで
www.eiken.or.jp/ielts

IELTSとは…

16歳以上を対象にしたテストで、英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するアカデミック・モジュールと、英語圏で学業以外の研修を考えている方向けのジェネラル・トレーニング・モジュールの2種類があります。いずれも、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4つのテストで構成されています。
IELTSは、フェアな試験内容と高い信頼性が特徴のテストです。一般的な英語検定テストと特に異なるのは、1対1の面接形式で行われるスピーキングテストがあることです。試験官が、受験者のコミュニケーション力を最大に引き出し、評価できるようにインタビューを行います。これが、他のテストと一線を画す、生きた英語を習得できるのがIELTSの強みです。

Listening + Reading + Writing + Speaking

ブリティッシュ・カウンシルでは、IELTS試験対策コースを東京・横浜で開講中!!
www.britishcouncil.or.jp

勉強法や留学した人の体験談がわかる
https://www.facebook.com/bcofficialIELTS.jp

公益財団法人
日本英語検定協会

BRITISH COUNCIL

公益財団法人 日本英語検定協会は、ブリティッシュ・カウンシルと日本でのIELTSを共同運営しています

東海地区海外留学フェア2013

各国の大使館・公的機関や日本国内の専門機関が海外留学を希望する
中高生・大学生・社会人の方々に留学についての最新情報をお届けします!

セミナーへの参加や個別相談ができる!

開催日時 **7月14日(日)11:00~17:30** ※入退出自由・参加無料です。オンラインでの事前登録を推奨しています。
会　場 **名古屋大学　豊田講堂シンポジオン** 〒464-8601　愛知県名古屋市千種区不老町
参加国 **アメリカ・イギリス・カナダ・オーストラリア・フランス**

くわしくはWEBで！ 東海地区海外留学フェア 検索 http://kbunsha.com/toukai

主　　催：公益財団法人 日本英語検定協会
共　　催：名古屋大学
参加団体：アメリカ大使館 /EducationUSA、日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）、ブリティッシュ・カウンシル、カナダ大使館広報部、オーストラリア大使館マーケティング事務所、Campus France – フランス政府留学局・日本支局、アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会、国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部、独立行政法人 日本学生支援機構、株式会社ディスコ
後　　援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、一般社団法人 日本英語交流連盟（ESUJ）、特定非営利活動法人 JAFSA（国際教育交流協議会）

英語圏大使館合同留学フェア2013

各国の大使館・公的機関や日本国内の専門機関が海外留学を希望する
中高生・大学生・社会人の方々に留学についての最新情報をお届けします!

豪華ゲストの講演も聴けるチャンス!

開催日時 **7月20日(土)11:00~17:30** ※入退出自由・参加無料です。オンラインでの事前登録を推奨しています。
会　場 **明治大学　アカデミーコモン2階** 〒101-8301　東京都千代田区神田駿河台1-1
参加国 **アメリカ・イギリス・カナダ・オーストラリア**

くわしくはWEBで！ 英語圏大使館合同留学フェア 検索 http://kbunsha.com/embassy

豪華ゲストによる講演「留学のすすめ」

(株)ティーシーシー取締役/
東進ビジネススクール講師/
通訳案内士
安河内 哲也 氏

東洋大学 国際地域学部
教授
芦沢 真五 氏

Teach For Japan
代表理事
松田 悠介 氏

経済産業省
通商政策局国際経済課
高木 美香 氏

東京大学特任専門職員・
フルブライト奨学生 '07-'09
上野 真由美 氏

主　　催：明治大学国際連携本部
共　　催：公益財団法人 日本英語検定協会、明治大学国際教育研究所、アメリカ大使館 /EducationUSA、日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）、ブリティッシュ・カウンシル、カナダ大使館広報部、オーストラリア大使館マーケティング事務所
後　　援：文部科学省（申請中）、外務省（申請中）、一般社団法人 日本英語交流連盟（ESUJ）、特定非営利活動法人 JAFSA（国際教育交流協議会）

東海地区海外留学フェア2013・英語圏大使館合同留学フェア2013に関するお問い合わせ先

公益財団法人 日本英語検定協会
教育事業部 国際課　担当：塩崎、伊藤
Tel: 03-3266-6121　Email: international@eiken.or.jp

英検